

地元地域を実証評価フィールドとする市場調査活動

地域ニーズ、革新的技術と当社の強みを繋げてコミュニティサポートインフラへ

技術開発本部では、大高周辺地域を中心に地域のニーズや課題を調査し、当社ノウハウやDX技術を活用した新たなソリューションの検証に取り組んでいます。地元の魅力はどう伝えるかという課題・ニーズから、「大高の歴史文化（今昔マップ）」「伝統的な有松の絞り・町並みの体験」などをテーマに掲げ、検証を進めています。

大高の取り組みでは、神話（氷上姉子神社）・戦国時代（大高城兵糧入れ）・JR大高駅（名古屋で最初の駅）・酒蔵等の歴史・文化の紹介、JR南大高駅・イオンモール大高を中心にした街の発展をテーマとした昔と今の風景写真の収集を、大高歴史の会などの協力を得て進めています。

その取り組みの一環として、イオンモール大高「緑区フェア」(5/1～2開催)に参加し、これまでに収集した大高歴史文化および南大高の昔と今の写真を動画にまとめて紹介したり、地元の方からマップ作りを兼ねて古い風景写真の募集をしました。今後も、イベントで知り合うことができた地元の方と連携し、大高の魅力を伝える取り組みを継続します。

有松での取り組みでは、旧東海道の宿場町としての有松の街並みや伝統的な工芸を題材に、現実と仮想を融合する最新の



イベント「緑区フェア」の実施状況

映像技術である「MR (Mixed・Reality：複合現実)」の活用を志向しています。歴史上の人物が現実の世界にあたかもそこにいるような新たなタイムトリップ体験や有松絞り等の伝統工芸の製作現場の体験をMRで実施することで、この地を訪れる来訪客を増やし、長い時間、満喫していただけるような観光地を目指しています。



有松（旧東海道）のイメージ

日本電気協会中部支部 第68回特別功績者表彰【発明等功績】を受賞

2021年3月25日に、第68回特別功績者表彰授賞式が行われ、賞状ならびに記念品が受賞者に贈呈されました。同賞は電気に関する有益な発明等の功績者に授与されるもので、当社からは以下の3人が受賞しました。

圧縮端子膨張事象の原因究明と再発防止

(電力技術研究所 藤田明吾さん)

変電所の開閉器に接続されている硬銅より線が圧縮端子から抜けるという事象に対し、知見が乏しいなかで凍結膨張により抜け落ちるメカニズムを究明しました。対策品の水抜き穴付き圧縮端子の有効性も実証して再発防止を図ったことで、冬期気温が氷点下になる電気所の安定供給に貢献しました。

変電所巡視作業の合理化を目指す漏油検出材の開発

(電力技術研究所 杉本敏文さん)

変電所巡視では変圧器等の油入機器からの漏油を早期に発見するため、作業員が密な頻度で確認する必要があります。漏油部位は遠距離からの目視では発見が困難なため、監視カメラを用いた遠距離からでも検出可能な、変色しつつ滴下を遅延させる漏油検出材を開発しました。

冷凍食材の自動解凍機の開発

(先端技術応用研究所 森秀樹さん)

冷凍食材の短時間解凍には、解凍ムラの発生や衛生管理が困難などの課題がありました。「自動解凍機（商品名：Sassa）」を共同開発し、衛生的でムラなく従来の6分の1以下の短時間解凍を可能としました。食品工場やスーパーなどから多くの引き合いがあり、その実用性が高く評価されました。



左から
藤田さん、杉本さん、森さん